

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 千464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 竹内真三

No. 2 (1983~1984)

みんなにロータリーを —— みんなに奉仕を

Share Rotary —— Serve People

1983~84年度RI会長 ウィリアムE. スケルトン

第46回例会 昭和58年7月12日(晴)雨

◇“奉仕の理想”

◇出席報告

会員 47名 出席 41名
出席率 87.23%

◇前回 7月5日(修正出席率) 97.83% make up

秋山君(7/7東南), 深見君(7/9守山), 加藤(保)君(7/8北), 大口君(6/30瑞穂), 笹野君(7/9守山), 菅原君(7/2守山)

◇ビジター紹介 5名

◇ニコボックス

水野(民)君(バッジをつけ忘れまして), 菅原君(7月1日, 岐阜に邦泳として10校目「サンスイミング長良」オープンしました。これからもよろしく), 日下君(退会にあたり今後の千種RCの発展を祈ります), 久保田君(ニコボックス委員になりまして), 尾関君(本日卓話させていただきます), 石田君・寺澤君・谷口君・成田君・黒須君・加藤(大)君・林君・菊池君・竹内君・菅原君・杉山君・浜口君・加藤(保)君(前年度100%出席のよろこびにあたり)

◇三輪幹事報告

1. 本日例会終了後, 臨時総会を開催いたしますので会員の方々はそのままお残り下さい。
2. 8月20日(土)の新入会員講習会の案内が届いている会員の方々は本日が締め切りになっていますので事務局まで連絡下さい。
3. 9月24(土), 25(日)日の年次大会の申し込みの御返事をされていない方は至急御連絡下さい。

◇日下君退会の挨拶

1年弱の短い間でしたが, 各方面で御活躍の皆様とお知り合いになれたことはとても光栄に存じます。このたび東京での事業を開始

することになりましたので残念ながら退会させて頂くことになりました。短い間でしたがいろいろお世話になりました。ありがとうございました。

◇1982~83年度100%出席者記念品贈呈

●1年

加藤保三君, 菅原宣彦君

◇新入会員紹介



氏名	小池 宗君 <small>たかし</small>
生年月日	昭和8年7月28日
事業所	(株)三旺 千種区末盛通り1-20-1 TEL 262-3030
地位	取締役 経理部長兼所長
自宅	愛知郡日進町梅森新135-262
推薦者	成田良治
職業分類	宅地建物分譲
委員会	職業奉仕, 親睦活動

◇竹内会長挨拶

会長の私がこんなことを申してはおかしいのですが, 率直に言って時々ロータリアンで何だろうとフト思います。そしてつつい一つの探訪を試みます。

ご承知のようにロータリーの歴史は20世紀と共に始まったといわれます。1905年不況と荒廢の街シカゴにおいて弁護士ポールハリスの呼びかけに, 石炭屋, 洋服屋, 鋳山技師の3人が集まり話し合ったのが今日のロータリ

一の基礎と言われます。

それに後れること15年、1920年米山梅吉により日本における最初のクラブ“東京RC”が誕生します。会員の選考には厳重で社会的地位のほか、特に語学力に注意が払われたとのこと。その後、2～3年の間に大阪、神戸ほか次々にクラブが設立されますが、何れもその都市における一流の実業家、一流の名士を会員とする風潮となり、これが日本のRCの特色となりロータリアン即エスタブリッシュメントであり、R. I. の中でも異色の存在であったと「日本のロータリー60年史」（以下60年史と略）には記述されています。

大東亜戦争でRCの空白時代を迎えますが、戦争の終結をみるや間もなく1949年にR. I. への復帰がかない、東京、大阪はじめ主要都市の7つのクラブが復活します。翌1950年朝鮮戦争が始まり特需景気により国内の経済は一気に回復しました。

それに歩調を合わせてその2～3年の間に次々と新クラブが結成され、一気に54クラブになったとのことで『60年史』には「戦前20年かかって、しかも満州、朝鮮、台湾と包括して猶50に満たなかったものが、2年3カ月でたちまち54とこれを追い越した」と感無量気に記述されています。それには実業人主体から戦後は医師、弁護士、学者、技術者、芸術家、僧侶等あらゆる職業から会員が選ばれたことが背景の経済の成長と共に要因になったと記されています。

『60年史』が申しますように戦前のわが国のR. はR. I. の中でも異色であったと考えられ、R. バッジそのものが社会的地位の象徴であったと申せましょう。しかし戦後はどうかということを考えてみたいのです。勿論地位の象徴の側面はありますが、クラブと会員数の増加と共に端的に申せば社会、職業、国際その他の各種の奉仕活動を通して初めてロータリアンとしての実体が定まるのであって、ただ漫然とR. バッジをつけていてもつまらないではないか、という感じが致します。R. I. スケルトン会長のターゲット Share Rotary-Serve People の呼びかけも私はそういった意味で受けとめております。

存在そのものがロータリアンであった戦前から戦後は諸種の綱領、規約の線に沿ってのアクションが伴って初めてロータリアンたり得る時代へと良い意味で変貌に来たと思うのです。

素朴な善意であれ、小さな行動であれ、シカゴの4人への原点復帰こそが大切で、即ち Share Rotary が生れるのではないかと考えます。

◇講演



“長幼の序”
会員 尾関 武弘 君

紳士服の歴史は、江戸幕府末期の開国前夜あたりが、わが国での始まりと言えます。

西国諸藩の近代軍隊の設置に伴い、軍服の需要が起き、又明治になってからの官吏の制服化、外国との交流等で、一段と拡がりましたが、国民全体が既製服として認識したのは、中華事変の始まるあとさきから政府の指導で着用された、いわゆる国民服からではなかったかと思えます。しかし背広と言うものは、オーダーメイドがほとんどで戦後になって既製服が一般に理解され、需要が拡大し、現在では紳士服における既製服の割合は90%に近づいております。さて、私は、紳士服メーカーの本業の他に、ゴルフスラックス、ウェアを製造販売する会社を共同でやっております。“PGA”と言うブランドで、これは日本プロゴルフ協会の推薦を得、その頭文字をブランド名にしたものですが、生産基地の確保と言う意味もあって、1974年に韓国の釜山に縫製工場を合弁で設立しました。そんな関係で度々韓国に行くことになり、合弁先の社長を始め現地のいろいろの人々とお付き合いをさせて頂くことができました。韓国は李王朝以来儒教を国教として国を治めたので、いわゆる孔孟の教えが家庭の中にまで及んでいます。男子優先、年長優先は勿論のこと、親子間でも礼儀が守られています。例えば息子はたとえ喫煙しても親の前ではタバコを吸わないし、又一緒に食事をし酒を飲む時でも親からは横を向くようにして、控えた形で飲食します。ある時韓国の上場企業の会長と日本の家庭で夕食に招待されたことがあります。その時偶然お茶を運んで給仕されたその家の祖母が部屋に入られた時、それまでリラックスして坐っていたのを突然坐り直し、知っている限りの敬語を使って最大級のあいさつをそのおばあちゃんにされたのにびっくりし、韓国の人達の精神的バックボーンがここにあると思いました。最近韓国でも道徳の崩壊が言われておりますが、未だこの精神的支柱が生きておりますし、又この単一民族の単一思想が韓国急成長の支えの一つだと思っております。

◇次回例会（7月19日）

卓話 “私学雑感”
会員 大谷和雄君

◇次々回例会（7月26日）

卓話 “ザ・ハート”
会員 和田正敏君